

工大一、盛岡三（岩手）と初戦

春季東北高校野球 光星は仙台一（宮城）

第70回春季東北地区高校野球大会（6月7～11日、岩手県）の組み合わせ抽選会が31日、リモートで行われ、出場14校の対戦カードが決まった。県勢は第1代表の工大一が盛岡三（岩手第3代表）と、第2代表の八学光星が仙台一（宮城第3代表）とそれぞれ1回戦

で激突する。工大一が対戦する盛岡三は、7大会ぶりの春季東北大会。投手陣の柱は2年生右腕・藤枝で、県大会では5試合に登板し、うち4試合で先発した。抜群の制球力を生かした打たせて取る投球が持ち味。打線が好調の工大一は、機動力や小技

も絡めて攻略したい。八学光星が初戦でぶつかる仙台一は県内屈指の進学校で、36大会ぶり2回目の東北大会出場。県大会の3位決定戦では延長11回タイブレークの末に東陵を破り、勢いに乗る。三瓶、千葉の両投手を中心に接戦にも強く、打線は本塁打を放って

る高打率の高橋に注意が必要だ。八学光星は持ち前の打撃力で試合の主導権を握りたい。本県の2チームは31日、県高野連事務局のある青森工業高校でリモート抽選に臨み、工大一は主将の長谷地耀（ひかる）と中村大二郎部長、八学光星は小坂貫志部長

が出席した。長谷地は抽選後の取材に「今年のチームは機動力に加え爆発力がある。青森の代表として恥じないよう、自分たちの野球を全力でやりたい。東北大会でいい試合をして、夏につなげたい」と意気込んだ。各県代表枠は、1週間の総投球数を1人当たり500球以内とする日本高野連の方針を受け、試合数を減らすために2022年度大会から原則2校に変更。開催県と次年度開催県のみ3校が出場する。

今大会は今年4月に（市）で実施。日程が順調に進めば、決勝は11日正午から、同ホール（市）と、花巻球場（花巻）で行われる。（本田海輝）